

骨粗しょう症

骨粗しょう症とは、骨の量が減ることで骨が弱くなり骨折しやすくなる病気です。骨粗しょう症では痛みはありません。しかし、転んだ際などに骨折をしやすくなります。骨折が生じると、痛みがあり動きにくくなったり、背中が丸くなり身長が縮んでしまうことがあります。

骨粗しょう症にはホルモンバランスの崩れやカルシウムの低下、ビタミンDの低下などが関わっています。特に閉経後の女性に多く、女性ホルモンの減少や老化とのかかわりが深いと考えられています。予防にはカルシウムやビタミンD、ビタミンKの摂取や適度な運動や日光浴が効果的です。

骨粗しょう症の診断にはレントゲンやDXA（デキサ）法、超音波法、MD法、CT法といった検査があります。



正常な脊椎

骨折がある脊椎



健康な骨

骨粗しょう症の骨

DXA（デキサ）とは

骨密度検査とは、骨の強さにかかわる成分の量を図る検査です。デキサでは腰椎（腰の骨）と大腿骨頸部（太ももの付け根）のレントゲンを撮影し骨密度を測定します。検査は全体で約15分で終了します。現時点では骨密度を評価する検査で最も信頼できる検査となっています。



検査費用

1割負担の方：450円

3割負担の方：1,350円

※別途診察料が掛かります。